

転入と転出者数前年比減少傾向

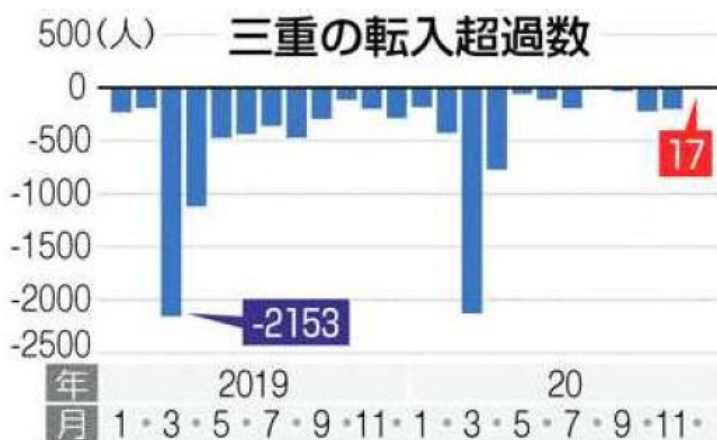
総務省がまとめる「住民基本台帳人口移動報告」からは、三重県と他都道府県間の転居に伴う人口移動の状況を見ることができる。三重は転出超過が長年続いてきたが、新型コロナウイルスの影響で、その傾向がやや弱まったようだ。

昨年四月以降、転入者数、転出者数ともに前年より減少傾向にあり、特に転出者数が大きく減少した。県外転出の多くは若年者で進学や就職、転職の時期に転出することが多いが、八月と十二月は、全体の転入が転出をわずかに上回った。

大学生でオンライン授業などで対応できるため転居しないケースや、企業内異動の抑制があると考えられるが、県外への転出志向が弱まっている可能性も示唆される。

若者が県内にとどまる傾向は、企業にとっては地域の優秀な人材を確保するチャンスになりえる。テレワークやワーケーションなど柔軟な働き方が広く知られるようになる中、新型コロナの感染収束後も県内にとどまる傾向が続く可能性はある。

(コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上 千賀子)



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む (百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました)」

2021年2月25日